

見つめなおそう!三方原郷土史家鈴木弘一郎・鈴木千代松両氏の主張

姫街道

発行:平成26年12月1日
 姫街道未来塾
 瓦版第22号
 発行人 上嶋裕志

徳川・武田激突の場所はどこのか?三方原歴史学
 が送り出した主戦場は、大谷坂上東大山説

三方原三遠南信会 故松田不秋氏 H20年12月執筆原稿を掲載

三方原は知らなくても三方原の合戦を知らぬ人は居ない程有名な歴史上の事件でありながら、その実、三方原台地に武田軍はどのルートを通ったのか、主戦場はどこかなど、未だに議論を残したままです。

昭和三十年代の中頃、この三方原の合戦を巡って時ならぬ大論争が勃発し、地元三方原を巻き込んで大騒ぎになったことがありました。発端は昭和三十三年に発行された歴史学者で国学院大学教授高柳光寿氏の著書「三方原之戦」からでした。それまで誰もが疑わなかった両軍が激突した主戦場は小豆餅周辺だとする、旧参謀本部刊行「日本戦史」中の「三方原役」による一般説を真っ向から否定し、真相は三方原台地の北の端に近い祝田坂上の根洗付近だとする突然の発表が、少なからず世間を驚かせ、たちまち受け入れられて行きました。

しかし、騒ぎはそれだけではおさまりませんでした。地元三方原の鈴木千代松氏を中心とする郷土史研究者の団が、高柳説にも問題ありとして、諸説入り乱れていた武田軍の台地上への侵入路は欠下坂からだとし、更に戦国の頃に台地を南北に縦断する道は本坂道一本だけで、今の金指街道は無かったなど当時の三方原の状況を推し量りつつ、本坂道を北上した大谷坂上の東大山辺りが両軍激突の舞台だと主張し、多くの識者の注目を集め、三方原の合戦論を華々しく世に送り出しました。

今回は、三方原の歴史論を全国の表舞台に出した鈴木弘一郎・鈴木千代松両氏が主張する戦の道と主戦場論に焦点を当ててみました。



二俣城址



水の手櫓

●三方原合戦の前哨戦 二俣城の攻防

武田軍の二ヶ月に及ぶ執拗な力攻めにも屈しなかった要害堅固を誇る二俣城ではありましたが、東三河を制圧し伊平口から侵入した別働隊・山県昌景勢が、二俣城の家康軍の前に立ちはだかりました。城の生命線、水の手櫓を破壊されるに及んで、さしもの二俣城将・山根正照も開城を決意し、十二月十九日武田軍の手に落ちました。



天竜川渡河地点、神増(かんぞ)付近



武田の二俣城攻め本陣、合代島亀井戸城址

●天竜川の渡河地点はどこに最適位置にあるのを重く見て、重臣依田信蕃を城番に配置しました。

武田軍は天竜川の浅瀬をつかみかね、二俣城を後に浜松城に撤退する山根正照らの足取りを見て、浅瀬の所在を知ったという話がありますが、一般説としては武田軍が本陣を構えた合代島(亀井戸城跡)に近い神増(かんぞ)磐田市豊岡上神増・下神増辺りで、川を渡った先は現在の浜北区中瀬を結ぶ地点だと考えられています。



旧欠下坂の図 絵:小杉和義

●欠下坂と信玄街道

二俣城を攻め落とした武田軍が、浜松城徳川攻めに向けて行動を起こしたのが、元龜三年十二月二十二日の早朝。天竜川を渡って一気に二俣街道を南下した武田軍は、有玉付近に来ていきなり西方に向きを変え、現有玉西付近の欠下坂を駆け登って三方原台地の大菩薩に陣取りました。そこから先、畑の中をやや斜めに西に延びる細い小路が追分方面に、ほぼ真っ直ぐに通っています。今に残る俗称「信玄街道」こそが、武田軍勢が足を運んだ三方原侵攻の道筋と考えられています。



坂は欠下住宅団地に囲まれている



今も残る戦国の道、信玄街道

「浜松いなさI.C」から車で10分
 神秘の大鍾乳洞 **竜ヶ岩洞**
 2億5千万年前の東海地方最大級の観光鍾乳洞です
 浜松市北区引佐町田畑193
 TEL (053) 543-0108 FAX (053) 543-0573

水と光と花の浜名湖 **サゴロイナルホテル**
R
 浜名湖かもめクルーズ
 ふじのくに静岡グルメバイキング
 ☎(053) 487-0711 ☎0120-35-1540

姫街道 **気賀関所**
 開館時間 午前9時～午後4時30分
 浜松市北区細江町気賀4577
 電話 (053) 523-2855

浜名湖県立自然公園 国民宿舎 **奥浜名湖**
 好評!! 浜名湖めぐり御膳
 地元で取れた旬の食材が大集合
 浜松市北区細江町気賀1023-1
 TEL053-522-1115

戦国の道と3つの合戦の開始場所説



奥浜名湖観光協会
http://www.oku-hamanako.net

浜名湖 湖北五山

— 天竜浜名湖鉄道気賀駅舎内 —

浜松市北区細江町気賀429-1
TEL・FAX (053) 522-4720

割烹旅館 おかさ

浜松市北区三ヶ日町三ヶ日1148-100
電話053-525-0218

満天星の庭 長楽寺

真言宗 遠州三名園

梅とドウダンの名勝庭園
浜松市北区細江町気賀 電話053-522-0478

時屋 とんきい

http://www.tonkii.com/
浜松市北区細江町中川

ミートレストラン 農家のレストラン
TEL (053) 522-2969 TEL (053) 523-2099

武田軍は三方原台地に3つの坂を上ったのか？



戦国道の図:小杉和義 旧大菩薩の坂

●大菩薩の坂と 旧宇藤坂

武田軍が三方原台地上がるのに都田(当代記)からとか宮口(甲陽軍艦他)を通して台地上へなどいろいろの説がありますが、特に説得力のあるものとして大菩薩や欠下平から三方原へのルートを目指す説(浜松御在城記他)が取り上げられます。中でも欠下坂を主張する三方原説を始め地元にも古くから伝わる話には耳を傾けないではいられません。欠下坂説のように古い道筋を今に残すとか、現状にてらしてほぼ納得できる道の有り様など、それらを総合して浮上するルートに同じ欠下平を基点に台地上る「大菩薩の坂」と、旧本坂道「旧宇藤坂」は何れも追分方面を目指すルートとして、一本では捌ききれない三万余の軍勢を分散させ上るには、格好の配置と推測するに相応しい名残を今に止めています。

●三方原の戦いの 主戦場



宇藤坂の上にある道標



宇藤坂



大菩薩の坂

武田軍は三方原を通過し、そのまま三河方面に進軍する模様と見てとった徳川軍は、その背後に台地を過ぎる下り坂辺りで捉えて一気に「逆落とし」をかける追撃の作戦を取り、

敗走する徳川軍とそれを追いつ武田軍、夕闇が迫るなか戦場は浜松城に迫る崖崖周辺に移行。先程までの死闘が嘘のように、果々と屍を散りばめたまま不気味に静まり返った荒れ野原の情景が偲ばれます。

「鶴翼の陣」を張って迫ったと伝えられます。ところが、東大山辺りで徳川の出方を予め読み取って、反転して迎撃の構え「魚鱗の陣」を張って待ち構えていた武田軍に捉えられ、たちまち両軍入り乱れての戦いになりました。十二月二十二日の夕刻に始まったこの戦いは、まもなく武田の罠にはまった徳川軍の終始劣勢のうちに、わずかに二時間足らずでアツという間に決着が付いてしまったといわれています。

地元三方原の歴史研究者によれば、この時に信玄が本営を設けた位置は大谷坂上から西南に約三百メートル入った東大山二ノ平辺りで、北側と北西側は甲州谷に面した要害の地であったと述べています。

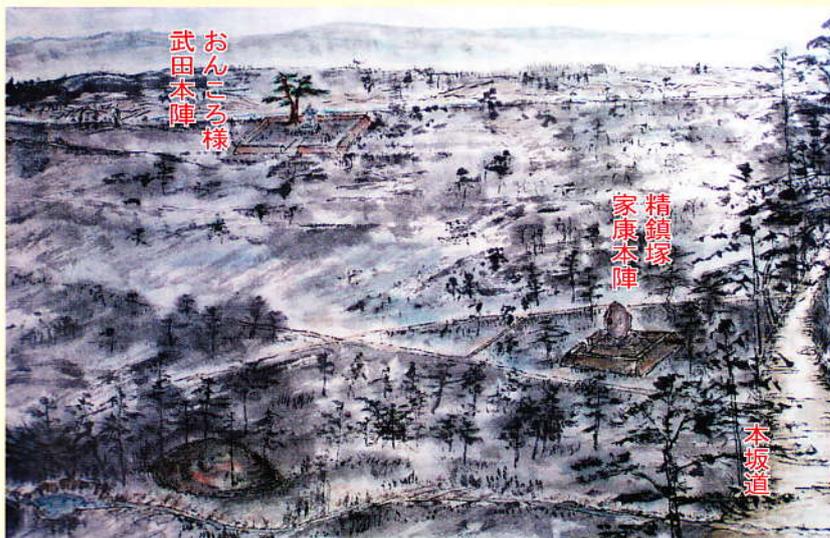
一方相対する徳川軍は、権七の西方約百メートルの位置に本陣を設定し、両軍の本陣はおおよそ千三百メートルの間隔を取り、その先鋒は約四百メートルまで接近し、にらみ合って対峙した模様だと推測されます。しかも、本坂街道を中心に南北に翼を広げる形で円弧状に展開したその横幅もまた相当の距離に及ぶとみれば、大谷坂上から祝田坂上の根洗辺まで約一キロ半、実際の戦場はもはや両説どちらとも云えない状況で展開したのではないかという想像も成り立ちます。

三方原研究者説によれば、大谷坂上から権七のほぼ中間「東大山一里塚」の辺りが最も激戦を交えた所と見ていますが、この地帯を主戦場と推定するにはそれなりの根拠がありました。

それは、合戦によって命を失った数多くの戦士を葬って祀ったと見られる痕跡として、東に「精鎮塚」西に「おんころ様」と、まるで両軍が相対するかのように向かい合った位置を定めていたことから、それが双方の本陣跡ではなかったかという推測を導き出しています。広い三方原台地の上で、三方原の合戦による戦没者の慰霊を教える箇所はこの二箇所だけ、その箇所もまた戦後の農用地開拓でその痕跡すら失われようとしています。

戦場は大谷坂上から東大山一里塚、権七に至る台地一帯

いくさば



権七から北側(大谷方面)を見たところの図:小杉和義



東大山一里塚付近

三方原研究者説によれば、大谷坂上から権七のほぼ中間「東大山一里塚」の辺りが最も激戦を交えた所と見ていますが、この地帯を主戦場と推定するにはそれなりの根拠がありました。

それは、合戦によって命を失った数多くの戦士を葬って祀ったと見られる痕跡として、東に「精鎮塚」西に「おんころ様」と、まるで両軍が相対するかのように向かい合った位置を定めていたことから、それが双方の本陣跡ではなかったかという推測を導き出しています。広い三方原台地の上で、三方原の合戦による戦没者の慰霊を教える箇所はこの二箇所だけ、その箇所もまた戦後の農用地開拓でその痕跡すら失われようとしています。

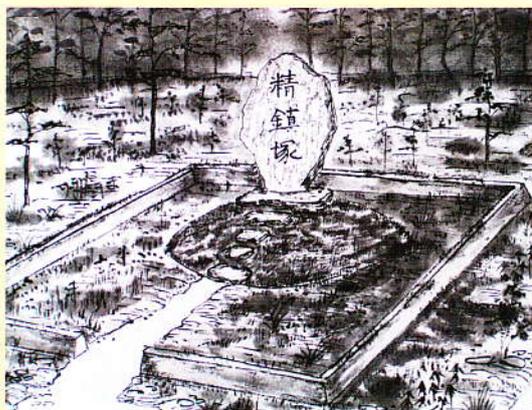
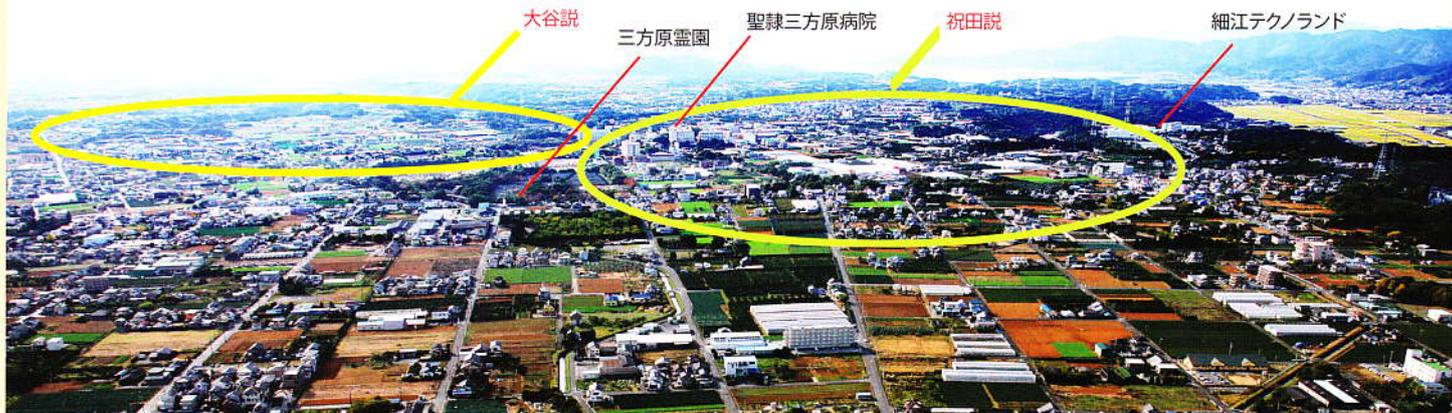
はみち
長坂養蜂場
http://www.1183.co.jp
浜松市北区三ヶ日町下尾奈97-1
電話053-524-1183 FAX053-524-1182

Food Land
業務用食肉 & 総合食品
株式会社フードランド
浜松市北区三ヶ日町三ヶ日843
TEL053-525-0153 FAX053-524-1290

三ヶ日製菓
銘菓 みかんの里
http://www.mikkabi-seika.com/
浜松市北区三ヶ日町三ヶ日745
TEL (053) 524-0018

浜名湖かんざんじ温泉
観光協会
「遠州道中膝栗毛ツアー」
http://www.kanzanji.gr.jp/about/
浜松市西区館山寺町1832-1
TEL (053) 487-0152 FAX (053) 487-0862

徳川方本陣跡「精鎮塚」と武田方本陣跡「おんころ様」



権七近くにあった精鎮塚 絵:小杉和義

徳川方本陣跡「精鎮塚」

本坂道権七の交差点を左に折れ約百メートルほど進んだ右側に「精鎮塚跡」の標柱が立っています。ここに建てられていた精鎮塚の石碑は、今は所を替え三方原神社の東にある三方原では一番古い寺「本乗寺」の境内に安置されています。この碑は大正年間に寺の六代目住職青島淳雄師によって現在地に移され、今も尚盆供養と暮れのそば供養が営まれています。

おんころ様は本坂道を浜松方面に、大谷の坂を上った直ぐの道を右折して約三百メートルほど入った辺りと伝えられていますが、周辺は農地開発が進んでもはやその痕跡すらなく、どの辺りであったかさえもわからない状態になってしまいました。

ただ、おんころ様と呼ばれた五輪の塔が、誰の手によってかは定かではありませんが、北区細江町の都田川沿いにある中川寺の境内に移され保存されています。



おんころ様の横に相生の赤松があったといわれ、明治のころ台風で折れてしまった

武田方本陣跡「おんころ様」



権七の近くの精鎮塚があった所



精鎮塚は本乗寺境内に移された



旧中川村の田米寺と雲泉寺、妙功庵が合併し中川寺が誕生したときに境内の一角におんころ様の上部が移された

↑中川寺

おんころ様の一部→



● どうして浜松城を攻めなかったのか

三方原で家康軍に完勝した信玄は、なぜか浜松城を攻めようとせず、そのまま三河方面に進路を向けたのは何故だろうと、後世に疑問を残した。ままた三方原の合戦は終わりました。三方原進入の道筋からして、始めから浜松城を攻めるつもりはなかった(高柳説)のではとの見方もありますが、目指す西上作戦に最大の難敵は織田信長。その信長が援軍を派遣したと知った信玄は浜松での真向勝負を敢えて避けたとする説(甲陽軍艦)もあります。

三方原の戦に完勝した信玄は、朝倉義景宛の書状に、完璧なまで相手を打ちのめし勝利を得て本意を達したとしたためているように、既に浜松城を攻め落とすまでもない結果とも受け取れます。今一つ、二ヶ月を要した二俣城以上に堅固な浜松城となれば、かなりの長期戦も覚悟しなければ、それに要する損失を考え合わせ、農兵の士気を保つ上でも得策とする戦略上の理由からだともいわれています。

※姫街道未来塾の構成メンバーだった三方原三遠南信会は残念ながら解散しました。今回編集後記休み

姫街道講座 細江図書館

- ◆ 1月10日(土) 姫街道の歴史を探る 佐野一夫
- ◆ 1月17日(土) 姫街道と細江神社 上嶋裕志
- ◆ 1月24日(土) 姫街道の謎を解く 姫街道検定結果発表

参加無料 ○時間 14時00分
申込先 細江図書館 40人
電話 053152710185
■姫街道未来塾協賛

本場炭焼きの味
清水家
うなぎ蒲焼

浜松市北区細江町気賀
電話(053)522-0063

姫街道 曲り松隣
まるたま
有限会社

姫街道の味便り
製茶工場直売の「深蒸茶」

浜松市北区細江町中川7172-917
☎ 0120-120-517

三ヶ日温泉湯元

ホテルリステル浜名湖

http://www.listel-hamanako.jp/

大好評!!個人・グループ
ランチバイキング

浜松市北区三ヶ日町瀬戸
電話(053)525-1222

姫街道 細江名物

みそまん

浜松市北区細江町気賀

外山本店 福月堂 お菓子のとやまかじや菓子店